26

氏名(生年月日)	塚田　三佐緒（ツカダ　ミサオ）
本　　籍	
学位の種類	博士（医学）
学位授与の番号	乙第2267号
学位授与の日付	平成16年5月28日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当（博士の学位論文提出者）
学位論文題目	**微小変化型ネフローゼ（MCNS）に合併する潜在性IgA沈着症の検討**
主論文公表誌	日本腎臓学会誌　第45巻　第7号　681-688頁　2003年
論文審査委員	（主査）教授　二瓶　宏
	（副査）教授　小田　秀明，鈴木　忠

論文内容の要旨

〔目的〕

健常人の腎糸球体に，潜在性のIgA沈着を認めることがある．この潜在性IgA沈着症の疫学や臨床的意義を明らかにする目的で，微小変化型ネフローゼ（MCNS）におけるメサンギウム領域へのIgA沈着の頻度と，その臨床病理学的所見について検討した．

〔対象および方法〕

1994年1月から2000年9月までに腎生検を施行し，光顕所見および臨床経過よりMCNSと診断した63例を対象とした．凍結切片を用いて，直接蛍光抗体法でIgG，IgA，IgM，C3などの沈着を調べた．臨床所見として，年齢，性別，発症時尿蛋白量，尿中赤血球数，血清クレアチニンおよびIgA値，ステロイド投与量，寛解までに要した日数，再発回数などを検討した．

〔結果〕

63例のMCNS症例のうち，15例(23.8%)に潜在性IgA沈着を認めた．IgA沈着例では，軽度のメサンギウム増殖性変化や電顕的に高電子密度沈着物を伴う症例が多く，ステロイド治療により血尿は消失するが，ステロイドの減量過程で再出現する傾向がみられた．血清IgA値は，ステロイド治療により有意に低下した．

〔考察〕

健常人の腎糸球体に潜在性のIgA沈着がみられることは，剖検腎や移植ドナー腎において報告されており，腎糸球体へのIgA沈着は決して稀ではなく，一定の頻度でみられる現象であると推測された．今回の検討でも，MCNS患者の約20%に潜在性IgA沈着を認めることが明らかになった．また，IgA沈着を認める症例の約半数に血尿がみられ，MCNS症例で血尿を伴う場合は潜在性IgA沈着症を合併している可能性がある．さらに，IgA沈着症に伴う血尿は，ステロイド治療により高率(86.7%)に消失したが，減量により再出現することより，ステロイド治療の継続が必要か否かについては，今後さらなる検討が必要である．

〔結語〕

MCNS患者におけるメサンギウム領域へのIgA沈着の有無は，腎機能や尿蛋白量との関連性はなく，MCNSの予後に及ぼす影響も少ないと考えられた．

論 文 審 査 の 要 旨

健常人の腎糸球体にIgAの沈着を認めることがある．この潜在的IgA沈着の意義を明らかにする目的で，微小変化型ネフローゼ症候群（MCNS）におけるメサンギウム領域へのIgA沈着の頻度と臨床病理学的所見について検討した．

光顕所見と臨床経過からMCNSと診断した63例を対象とした．凍結切片を直接蛍光抗体法で染色し臨床所見と対比検討した．63例中15例（23.8%）にIgAの沈着を認め，メサンギウムに軽度の増殖性変化や高電子密度の沈着物を伴う例が多かった．ステロイド治療により血尿は消失するが，減量の過程で約50%に再発を認めた．ステロイド治療により血清IgA値は有意に低下した．血尿を伴うMCNS例では潜在性IgA沈着症を合併している可能性がある．MCNS例の予後に及ぼす影響は少ないと考えられるが，減量に伴う血尿の再出現は治療上さらに検討を必要とする．

腎組織へのIgA沈着を検討する端緒を開く臨床的に価値ある論文である．